

大城 直人 (OSHIRO, Naoto)

沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科 准教授

沖縄キリスト教学院大学大学院 異文化コミュニケーション学研究科 准教授

【プロフィール】

取得学位、 大学・機関、取得年	<p>学士(外国学)、神戸市外国語大学 外国語学部 英米学科、1998年</p> <p>修士(学術)、名古屋大学大学院 人間情報学研究科 社会情報学専攻、2001年</p> <p>修士(英語教授法)、南イリノイ大学大学院 言語学部 英語教授法専攻、2003年</p>	
専門分野	英語教育学、第二言語習得研究、応用言語学	
研究分野	<p>第二言語習得における学習者要因(学習方略、動機づけ、自律学習)</p> <p>英語授業研究(EFL 環境における英語授業分析、ISLA)</p> <p>英語の語彙・文法の効果的な学習・指導に関する量的研究</p>	
研究職歴等	<p>沖縄県立高等学校 教諭 2004年－2014年</p> <p>沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科 准教授 2014年－</p> <p>沖縄キリスト教学院大学大学院 異文化コミュニケーション学研究科 准教授 2016年－</p> <p>沖縄大学 人文学部国際コミュニケーション学科 非常勤講師 2016年－2017年</p>	
担当科目	<p>(人文学部) 英語科教育法Ⅰ・Ⅱ、英語科教育法演習Ⅰ・Ⅱ、教育英文法、教育実習事前事後研究、教育実習、教職実践演習、卒業研究(演習)Ⅰ・Ⅱ、卒業基礎研究(演習)Ⅰ・Ⅱ、フレッシュマン・セミナー</p> <p>(大学院) 英語教授法特論、英語教育学特別演習Ⅰ・Ⅱ</p>	

【研究活動業績】

研究業績(主要論文・著書)	<ol style="list-style-type: none"> 「大学生の英文法に対する意識・態度・行動に関する量的研究－英文法の学習・指導方法への示唆－」、沖縄キリスト教学院大学論集 第15号、2018年 『『ハワイ研修・海外幼児教育研修』の継続・発展を願って(2)－2015年度研修総括－』、沖縄キリスト教短期大学紀要 第45号、2017年 「英語専攻大学生を対象とした英語の学習成果と行動及び態度に関する研究－性別・英語学習開始時期・英語熟達度・留学経験に基づく比較分析－」、沖縄キリスト教学院大学論集 第12号、2016年 「英語運用能力の土台作りと主体的に学ぶ姿勢の涵養－音声活動を柱として－」、沖縄県立総合教育センター、2014年 「進路指導における実践的課題解決の工夫－学習集団づくりを柱とした難関国公立大学進学実績の向上を図る取組－」、沖縄県立総合教育センター、2011年 「英語学習方略に関する一研究－学習方略の意識化と定着を目指して－」、沖縄県立総合教育センター、2005年
---------------	--



	<p>7. 「より良い英語教育を求めて—私の TESOL (英語教授法) 留学—」、沖縄県国際交流人材育成財団、2003 年</p> <p>8. 「日本人英語学習者の英文読解プロセスの研究—日英語の構造差に注目して—」、名古屋大学大学院人間情報学研究科 (修士論文)、2001 年</p>
社会活動等	<p>全沖縄高等学校英語弁論大会 予選審査員 2009 年</p> <p>沖縄英語教育学会 運営委員 2015 年—</p> <p>全沖縄高等学校英語ディベート大会 本選審査員 2015 年—2016 年、2018 年—2019 年</p> <p>沖縄外国文学会 運営委員 2016 年—</p> <p>沖縄県高等学校英語教育研究会 授業研究会 指導助言者 2016 年—2018 年</p> <p>沖縄県公立学校教員候補者選考試験英語試験問題作成に係る有識者会議 副座長 2016 年—2017 年</p> <p>沖縄県「国際性に富む人材育成留学事業」(高校生)選考面接官 2016 年—</p> <p>沖縄県立豊見城南高等学校 学校評議員 2016 年—2018 年</p> <p>沖縄県立西原高等学校 学校評議員 2019 年—</p> <p>全国高校生英語ディベート大会 in 群馬 予選審査員 2019 年</p>
所属学会	<p>ことばの科学会、関西英語教育学会、全国英語教育学会、大学英語教育学会</p> <p>日本第二言語習得学会、日本教育心理学会、沖縄英語教育学会、沖縄外国文学会</p>

一言	<p>“Everything can be taken from a man but one thing: the last of the human freedoms – to choose one’s attitude in any given set of circumstances, to choose one’s own way.” (Victor Frankel, 1905-1997)</p> <p>アウシュヴィッツ強制収容所における非人道的で過酷な環境下にあっても、自らの命の危機を顧みず、最後の一切れのパンを他人に与える行動を選んだ人たちがいたという事実に、大きな衝撃と深い感動を覚え、魂の高貴さに対する畏敬の念を禁じ得ませんでした。</p> <p>選択の連続である日々の生活の中で、私たち一人一人がより善い道を選ぶことができれば、平和でより素晴らしい世界を築くことができると信じています。“Peace maker への道は、より善い Choice maker になることから！”</p>
----	--